

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基に事業所の基本方針を作成、そこから個人の目標に落とし込んでいます。地域との交流を大切に企画を立案、実践しています。	法人理念を基に地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作成し、事業所内に掲示して職員に周知徹底を図っている。年度の基本方針には理念を更に掘り下げた具体的な活動目標を掲げ、地域交流の充実を図るとともに、利用者個々のケアプランにも落とし込んで日々の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設の行事や料理企画の際には、地域の方にご案内を出し参加して頂いています。地域のバーベキューにも参加させて頂き交流を図っています。	「ちまき」づくりや暑気払いの行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地区のバーベキュー大会への参加、保育園との交流、園芸農家への支援など、地域との交流には力を注いでいる。特に伝統食(ちまき等)に関する企画が地域の方や利用者にも喜ばれるので、更に発展させるべく取り組んでいる。また、季節野菜や果物の差し入れ、外出時の挨拶や世間話等、普段の近所付き合いなども図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域の方や家族様等の認知症の理解を深める為に、グループホームの役割や認知症とはどういう病気なのかなどをお話しさせて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、入居者、家族様、地域の方、民生委員の方、行政の方に参加して頂き運営推進会議を開催しています。施設の取り組みや皆様からの意見交換の場として活用しています。	運営推進会議は定期的開催され、事業所から利用者の状況や運営状況、現在取り組んでいる事などの報告がなされ、委員から助言をもらったり意見交換を行ったりしている。また、委員の助言に基づき、非常口の階段にスロープも取り付けられた。行事についても話し合わせ、内容を事業計画に入れるなど、実際の運営に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に行政の方にも参加して頂き、施設のサービス状況等をお伝えしています。また、サービス状況から対応が困難になった場合は連絡をとり相談させて頂きながら取り組んでいます。	行政職員は運営推進会議に参加しており、事業所の運営状況や利用者の暮らしぶりを伝える機会になっている。必要時は細やかな相談、助言、連絡がスムーズに行われており、協力関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の高齢者虐待・身体拘束廃止委員会活動を中心とした勉強会に参加し理解を深めています。	法人内に委員会が設置され、事業所からも2名の委員が参加しており、定期的な勉強会が行われている。勉強会で話し合われたことは、会議や伝達講習で職員全員に周知し、身体拘束に関する理解を深めることで、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支えている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の高齢者虐待・身体拘束廃止委員会活動を中心とした勉強会に参加し理解を深めています。	委員会で不適切ケアについて、職員の意識調査を実施している。調査項目は具体的な場面に即したものとし、判断の根拠も記載することとしている。結果を基に、利用者への適切な言葉かけや支援方法について理解を深め、よりよい実践を目指している。管理者は職員の疲労やストレスにも配慮しながら、日頃から密なコミュニケーションを図るなど、就業環境の整備に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内外の研修会で制度について学ぶ機会がありますが、権利擁護や成年後見制度に対する理解は乏しいのが現状です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際の内容の説明については、分かりやすいように説明することを心掛けています。他施設の相談員の契約等も参考にし、取り入れ実践しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人内で行なっている顧客満足アンケートの実施、集計を行い結果についての改善策を家族様へ配布、施設内に掲示しています。	利用者の意見や要望は、日々の会話の中で汲み取って実現するよう努めている。家族からは面会や電話の際に聴いたり、顧客満足アンケートから把握するなど、運営に反映させている。アンケート結果や改善策は家族に配布し、事業所内にも掲示している。意見箱も設置してある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回事業部の会議や、ひまわり会議にて職員の意見や提案を聞く機会を設けています。また日々の提案については情報共有ノートを活用し意見を出してもらっています。	会議では各種委員会や行事担当からの報告があり、意見交換が行われている。現在、会議出席率が課題となっており、時間帯の変更等を検討中である。日々の提案は「何でもノート」を活用して些細なことでも書いて伝え、情報共有や改善に結び付けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理制度を取り入れ職員一人一人がやりがいをもち仕事ができるよう環境を整えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内ではキャリアパスを基に研修会を実施しております。対象の職員には意見を聞いて参加して頂き力量アップにつなげています。また、外部研修にも進んで参加できるよう自己啓発費用として上限3万円で補助が出来ます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の各研修や委員会活動、勉強会を通じて他施設職員と情報交換や意見交換を行っています。また法人内のグループホーム連絡会を通じ情報交換を行いサービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から本人様の情報収集を行い、また本人様と直接話をする事で、要望等を引き出すよう関係作りをしています。また入居後も24時間シートを活用し本人様の様子を細かに観察しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や入所時のカンファレンスを活用し家族様の要望等を伺っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に他のサービス利用も視野に入れながら体調の確認を行っています。グループホームでの支援が必要であるかの判断は判定会にて決定しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の下準備や片づけ等できることは一緒に行って頂いています。また洗濯物を干したり、たたんだりも協力して頂いています。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等には家族様の参加も呼びかけ一緒に参加して頂ける様計画を立て実施しています。また外出や外泊も安心してできるよう支援しています。	定期的なお便りや電話等で本人の様子を細かく伝え、家族の状況も伺って、本人にとってより良い支援を一緒に考えている。また、行事への参加、外泊、外出等に家族の協力を得ながら、共に支える関係づくりに丁寧に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来て下さった方と、ゆっくり話ができるよう環境面に配慮をしています。外出、外泊も安心してできるよう支援しています。	面会の際は居室かホールでと場所を選んでもらったり、お茶の用意をしたりして、ゆっくり話ができるように配慮している。また、本人や家族の思いを聴いて、馴染みの美容院やお店での買い物、お墓参りなどの外出を支援している。食事時は仲のよい方と食堂の席を近くしたり、希望があれば一緒に入浴していただくなど、事業所内での馴染みの関係継続も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席の配慮やレクリエーション活動には皆さんが参加できるものを取り入れる等、支援を行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居となった場合でも、次の入居先の相談等支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用しアセスメントを行っています。本人様から直接伺えないことは、日常の行動や発言を記録に残しアセスメントに活用しています。	利用前に家族から本人の暮らしぶりを聴き取り、本人の思いや希望を把握している。日々の暮らしの中の何気ないつぶやきや表情からもその真意を推量り、センター方式24時間シートを活用してアセスメントしている。さらにはアセスメントに基づいて具体的な介護計画を作成している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴として、居宅のケアマネから個票を頂いたり、家族様、関係職種から話を伺っています。	生活歴やその人らしさの個性、趣味などは、利用前の居宅の介護支援専門員からの情報を踏まえ、事業所独自のシートを用いて本人の全体像を把握している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の様子について生活記録に様子を記載し状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当を中心にモニタリングを行い、カンファレンスやサービス担当者会議にて計画書の妥当性について検討しています。家族の希望については計画作成が中心に面会や電話にて伺っています。	日々の関わりの中での変化や気付きは「何でもノート」に記載することで情報共有を図っている。また、居室担当を中心にひまわり会議でモニタリングが行われている。家族の希望や意向も面会等で確認が出来ており、看護師との連携の中で症状に応じた計画の見直しも図られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子については毎日のミーティングを活用し情報共有ノートで共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅要求に対しては外への散歩や、ドライブなど支援しており、自施設だけでは難しい対応も他事業所と協力する事で実施しお客様に楽しんでいただくよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域貢献の活動として、ユリ農家様への新聞たたみ作業は続けて行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院での担当医が決められていて定期的に受診をしています。また、ご家族へは電話やお手紙で結果等をお知らせしています。	入所時に希望病院やかかりつけ医を確認し継続支援している。受診の際は家族の付き添いを基本としているが、協力病院での受診は職員が付き添い、家族に受診結果を報告している。急変時は隣接施設の看護師も協力してスムーズな対応が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の変化等気づいた事は記録に残し情報を送っています。週に1回看護師が来た際は状態を伝え相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護連絡票を作成し情報を正確に伝えています。また病院の相談員や看護師からこまめに情報を頂き状態の把握に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについての事例はありません。入居の方からも最期までここで生活したいと希望も聞かれます。現在、他の事業所にも相談しながら体制作りを検討しているところです。	終末期ケアに対して職員は、実践の事例に至らないため、他の事業所にも相談しながら体制作りを検討している。現在、個人医院に協力を打診している段階ではあるが、事業所の「看取りの指針」を作ろうと、職員の前向きな姿勢が共有されている。	日常生活を支える取組みの中で、人生の最後をその人らしくどう過ごせることができるかは、避けて通れない課題となってきている。法人内の様々な機能を生かし、職員は外部研修等で研鑽を積み重ね、実践に結び付ける力の育成が期待される。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の講習会に参加したり対応について学んでいる。マニュアル等もあるが実践できるかは職員の力量に差もあり不十分であると感じます。	採用研修時、実際の事例を課題として急変や事故時の対応について学ぶ体制が整っている。リスク委員会を中心に毎月強化週間を定めて事故予防に力を入れている。夜間は2つのユニットの職員が連携して対応する体制が整備され、職員の安心できる職場環境に繋がっている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回事業部で避難訓練を実施しています。訓練には地域の方にも協力頂いています。	実践的な避難訓練や通報訓練は、年2回定期的に行われている。訓練実施については運営推進会議や回覧板等で家族、地域住民の参加協力を呼び掛けている。職員寮からの駆けつけ体制、食糧、飲料水等の備蓄は隣接施設で保管されており、積雪時の避難口も整備体制が整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや入浴の際、プライバシーを守るよう必ず戸を閉めています。また部屋に入る際もノックし声をかけています。職員が互いにきちんとできているか確認し注意し合える環境です。	「こやまケア10か条」を行動指針として、日々の生活で一人ひとりの尊厳が守られているかどうか、自己評価も含めたケアの確認と改善に取り組んでいる。また、実践評価表を用いて、定期的に法人内の事業所間で評価を実施し、安心、安全の暮らしの継続に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様が食べたいと言った物をメニューに取り入れたり、企画に上げ取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様の希望で散歩や外出に出たり、レクリエーションも皆さん一緒に、選んで頂けるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に着る服を選んで頂いています。また外出の際は一緒に洋服を選んだり身だしなみに気をつけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備や片付け等、出来ることは一緒に行ってもらっています。誕生日の企画の際はその方の希望されたメニューを取り入れています。	地元食材の提供や四季折々の野菜や果物を取り入れた幅広い献立は、利用者の暮らしの楽しみに繋がっている。ちまきやおはぎは誕生日会のリクエストメニューであり、大変喜ばれているメニューである。また、利用者個々の持てる力の発揮は、ケアプランの目標として情報共有が図られている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は併設施設の栄養士にも確認してもらい、お客様の状態に合わせて食事を提供しています。食事や水分の摂取量についてはチェックを行い把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけをさせて頂いています。必要な方については磨き残しの確認や介助、義歯の洗浄も行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在オムツを使用している方はいません。排泄チェック表を確認しお客様の排泄パターンを読み取り、トイレ誘導や声かけを行うことで失敗の軽減に努めています。	24時間シートでアセスメントを行い、排泄パターンに応じた個別の支援が行われている。さりげない声掛け、利用者の行動、サインを見逃さない誘導は自立に向けた支援に繋がっている。また、トイレ内にはパンツ、パット類は置かず、自尊心への配慮の工夫がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂ってもらったり、歩行を促し運動を取り入れ便秘予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お客様に気持ち良く入浴して頂けるよう、時間等工夫しています。また両棟の職員が協力しながら希望に沿うように対応しています。	同姓介助を基本として、週2回の個浴で支援が行われている。仲の良い方同士、決められた日以外の入浴等、希望や意向に沿うことが出来るようユニット間の連携が図られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れた様子がある方はお客様に確認し休んで頂いています。またお部屋の温度にも注意しています。就寝時にも、その方に合った介助を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後内服の変更があった際は記録に残し情報共有を図っています。また薬板を変更し間違いがないよう対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出や散歩が好きな方には外出支援、料理が好きな方は一緒に作って頂く等、その方に合わせた支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物の希望があった際は一緒に出掛けたり、行事等で外出の機会を設けています。	行きつけのスーパーまで、車で10分の距離ではあるが、本人との話しの中で、意向をくみ取り外出支援をしている。回転寿司の夕食、日帰り旅行等は家族に案内を出し、共に楽しめる配慮もなされている。彼岸参りや盆・正月をはじめ、一人ひとりの希望に沿った外出支援にも努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望時には立て替え払いとして、買い物時などに購入をさせて頂いています。お客様の状態にあわせてご家族様と相談し、お金をもってこられている方に対しては、自由に使っていただけるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様から希望があった際は、電話して頂いたり自分では番号が押せない方には、代わりに押してからお渡りするなど対応しています。また、手紙等郵便物はこちらでポストに投函する支援をおこなっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物や写真は季節や行事ごとに貼り換え、お客様に楽しんでいただいております。共有の空間を含めトイレや浴室など温度管理を行っております。夜間等は混乱を招かないよう明るさや、温度など気を付ける配慮をしています。	高い天井と大きなガラス窓、床の間、花、畳、掘炬燵は馴染んできた生活の継続であり、居心地の良い空間作りの役割を果たしている。大きな共同作品のカレンダーや写真の配置にも工夫がされており団欒の場となっている。床暖房と大きなストーブ併用で空間全体の温度配慮もなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった方同士や昔からの知り合いの方など、隣り同士で座るなど、それぞれ皆さんがお好きな場所で過ごして頂くことができます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用されていた馴染みの物や家具、洋服等を持ってきていただいています。居心地良く過ごして頂くよう本人様が作成した作品や、出かけてきた写真等飾らせて頂いています。	居室入り口のカフェカーテンはプライバシー保護となり、棚に飾られた写真や小物類は、その人らしさの表現であり、職員の工夫が窺える。室内の家具の配置は、一人ひとりの生活動線を把握して整理されているため、転倒のリスク軽減となっている。仏壇や思い出の写真等も活かされ、心地よく過ごせる環境になっている。洗面台の下に鏡を追加することで、腰掛けて整容、歯磨きが自分で行えるなど、自立に向けた支援の工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	能力維持の為、洗濯物たたみや洗い物、料理や食事準備等その方にできることをして頂いています。廊下や玄関にも手すりをつけて、安全に歩行できるようにしています。		